

合併70周年に向けて

現在の田原本町は、昭和31年9月30日に多村・川東村・平野村・都村・旧田原本町の5町村が合併して誕生し、今年合併70周年を迎えます。

住民の皆さんに改めて田原本町への愛着を深めていただけるよう、町に縁のある人々に町の魅力や地域への想いを語っていただく連続特集をお届けしています。

第1回では、田原本の歴史を守り、その価値を未来へ伝える人を、第2回では、町の魅力を発信し、農業や観光を通じて地域の豊かな資源を次世代へつなぐ人々を紹介しました。

田原本町のあゆみ



田原本駅前通り (昭和30年)



スイカ収穫 (昭和34年)



ぎおんさん (昭和48年)



田植え体験 (令和8年)

第3回となる今回は、音楽活動や

見守り活動、福祉ボランティアなど、日々の身近な活動をきっかけに、人と人とのつながりを育みながら地域の課題に向き合う皆さんを紹介します。支える人・支えられる人という枠を超え、一人ひとりの小さな行動が多くの人を巻き込み、新たな地域の力となっています。誰もが安心して暮らせる田原本町を地域の皆さんと共に創る「共創」の輪。その想いを未来へつなぐ活動に触れながら、これからの田原本町の姿を考えます。

活動内容

チームオレンジでは、認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症普及啓発イベントやオレンジカフェ、出前講座などを通じて、認知症への理解を広げる活動を行っています。

「知りたい」が地域への一歩に

民生委員・児童委員として高齢者と接する中で「認知症についてもっと知りたい」と感じたことが、堤さんが活動を始めたきっかけでした。認知症サポーター養成講座やステップアップ研修を受講し、男性メンバーとして声を掛けられたことを機にチームオレンジへ参加。現在は講座やイベントの運営に加え、見守り活動の際にはパンフレットを配り「元気なうちから認知症の知識を持ってほしい」と伝えていきます。

地域に広がる支え合いの輪

看護師として20年以上認知症ケアに携わってきた佐藤さんは、退職後「施設だけでなく地域でも認知症の人やその家族を支えたい」と活動に参加しました。オレンジカフェや認知症サポーター養成講座などを通じて理解を広げるほか、日々の相談

認知症の理解を広げ、人と人がつながる町へ



田原本町チームオレンジ
佐藤 洋子さん、堤 裕さん

にも寄り添っています。また、チームオレンジでは男性メンバーの存在も大きな力になっています。男性が加わることで、男性参加者も安心して参加しやすくなり、多様な人が集うことで地域とのつながりもさらに広がっています。

つながりあい、共に生きる町へ

10年後の田原本町が、支える人、支えられる人と分けるのではなく、お互いを認め合いながら「共に生きる」という共生の考え方が自然に根付き、誰もが安心して暮らせる町になってほしいと願っています。また、お互いを思いやり、地域全体で支え合える温かな町を次の世代へつないでいきたいと、力強く語られました。

活動内容

たわらもと吹奏楽団では、毎週日曜日に練習を行いながら、年1回の「弥生の里コンサート」をはじめ、ぎおん祭や出初式、二十歳のつどいなど町内のさまざまなイベントで演奏しています。福祉施設への訪問演奏では、職員さんにも歌やダンスで参加してもらい、みんなで音楽を楽しむことを大切にしています。

40代で始めた、新しい挑戦

私自身、中学校から大学まで吹奏楽を続けてきました。40代になった頃、当時の田原本町は今より静かで、音楽に触れる機会も多くありませんでした。「町にもっと音楽があってもいい」と感じ、仲間とともに平成14年に吹奏楽団を結成。演奏の場を自ら探しながら活動続け、その積み重ねが現在の地域に根差した活動につながっています。

世代を超えて受け継がれる音

吹奏楽団を続ける中で大切にしてきたのは、地域とのつながりです。町のイベントや福祉施設で演奏を重ね、多くの人と交流してきました。また、結婚や出産、子育てなどで一度活動を離れても、また戻ってきて活躍できる場所でありたいと考えています。

吹奏楽の音色に導かれ、世代を超えてつながる町へ



たわらもと吹奏楽団
団長
藤本 義則さん

音楽はミックスジューズ

吹奏楽にはさまざまな楽器があります。20年以上続けてきた今、それぞれの音が自然に溶け合い、一つの音楽になってきました。例えるとすれば、ミックスジューズといった感覚でしょうか。それぞれの個性が混ざり合い、一つの味になるように、音も一つになってきたと感じています。10年後には、もっとおいしいミックスジューズになっていてほしいですね。

田原本に響く音を、未来へ

音楽は世代を超えて人と人をつないでくれるものです。これからも田原本町に音楽のある風景を残してほしいと思います。10年後の田原本町が、子どもから高齢者まで誰もが健康で安全に暮らし、それぞれが趣味や生きがいを持ちながら笑顔で過ごせる町になってほしい。その中で音楽も地域に寄り添う存在であり続けてほしいと、穏やかな表情で語られました。

活動内容

田原本町ボランティア連絡協議会は、町内を中心に活動するボランティアのネットワークであり、ボランティア活動の活性化を目的とし活動しています。会員同士の交流や活動啓発を目的に研修会や交流会、イベントなどを企画、実施しています。ボランティア活動を通じ、住みよい町づくりにつながればと思っています。

支えられた経験がきっかけ

私がボランティアを始めたきっかけは、自分自身が大病を患ったことでした。その時に看護師さんや地域の人に支えていただき「今度は自分が誰かの力になりたい」と思うようになりました。子育てが一段落した頃、知人に声を掛けてもらい、高齢者の体操教室を始めたのが活動の第一歩です。その後、傾聴活動や軽度な日常生活の支援などへ活動の幅が広がり、地域の皆さんとのつながりが私自身の大きな喜びになっています。

「ありがとう」が活動の原動力

ボランティア活動で一番うれしいのは「ありがとう」と笑顔で言っていただけの瞬間です。ほんの少しのお手伝いでも喜んでくださる人が多く、その言葉

ボランティアを通して人が集い、笑顔が広がる町へ



田原本町ボランティア
連絡協議会
会長
本田 希久子さん

が活動を続ける力になっています。仲間にも恵まれ、私自身もボランティアへ行くことが楽しみです。ボランティアは特別なことではなく、できることを少しずつ持ち寄ること。人とのつながりを大切にしながら、誰もが気軽に参加できる温かい活動をこれからも続けていきたいと思っています。

安心して「帰ってきたい」と思える町へ

10年後の田原本町が、誰もが安心して暮らせる、助け合いの輪が自然と広がる町になってほしいと思います。仕事や子育てが一段落した時に「地域のために何かしてみよう」と思う人が少しずつ増え、それぞれのタイミングで地域とのつながりを持ち、次の世代へ活動が受け継がれていけばうれしいですねと、未来への願いを込めて語られました。